

## 安全な水

ポツポツと空に広がる灰色の雲から、小さな雫が落ちてくる。土やアスファルトの上には落ちるもの、水の上に波紋をつくり落ちるもの。また、植物の葉の上に乗るゆっくりと下へと落ちていくものもある。

私の暮らす奈良県天理市山田町は、周りを山々が囲い野生の動物たちも暮らしている自然豊かな所です。きれいな川も流れています。幼い頃は夏になると、暇さえあれば家の裏の川で水遊びをしていました。家の斜め前の山からは、天然水が、父の作った細い竹の管を通り、道の端の溝へと流れ出てきています。その水はとても美しく、管の口から出ている水はそのまま飲むことができます。私は五歳くらいその時に祖母から、この水のことを教えられました。祖母から、この水のことを教えられたのはよくわかりませんが、その水は

天理市立福住中学校 三年

大東 風生

きれいで飲めるということは分かりました。初めて飲んだ時はおいしいと思いましたが。こんなに水っておいしいかったんだと思いました。「冷たくておいしいやろ。」

と、祖母は私に言ってそれから、

「けど、この下の溝に流れてる水は飲んだらあかんぞ。」

と、その下の水の流れている溝を指して言いました。

「なんで。」

と、私は聞きました。すると祖母は、「この流れてる水はな、むかいの家から出た、トイレとかお風呂につかった水やねんぞ。」と、教えてくれました。この時の私は生活排水なんて言葉は、頭に浮かんできません。水なんて言葉は、頭に浮かんできません。どちらも同じ水なのに、山から流れている水と、家で生活のために使った水とでは、

飲める飲めないという大きな違いがあるということを実感しました。

よく、テレビでアフリカの方の人たちが、水をくみに川へ行く映像をみます。水というもののは生きるのには欠かせないものです。でも、水ならばなんでもいいというわけでもありません。汚染された水はときには人体の健康に悪影響を及ぼすこともあります。生きるためには、安全で飲める水が必要です。インターネットで調べてみると、世界には安全な飲み水を手に入れることのできない人たちが十億人以上もいて、その中には私たちと同じくらい、もしくはもっと幼い子供が四億人以上もいるそうです。アフリカのサハラ以南では、子供の四十三パーセントが不衛生な水を飲み、その中の五人に一人が十五歳になる前に亡くなっています。中には、水が透明であるということも知らない人もいます。そうです。そんな人たちはきつと、毎日泥などで濁った水しか飲めないのだらうと思いましたが。

そう思うと、今の自分の生活が、とても豊かなのだと思いました。蛇口をひねれば、安全な飲み水が出てくる。きれいな水で体を洗

え、お風呂につかることができる。これはとても、幸せなことなんだと思いました。

三年前に起きた東日本大震災では、放射性物質により水が汚染され人々は大変戸惑いました。いくら決められた基準値を下回っていたとしても、口にふくむ物です。安全な水があれば安全な方を選びます。けれど世界には、安全な水を手に入れることができず、亡くなってしまう人たちがたくさんいます。

今、私たちが安全な水とともに生活ができることがどれほど幸せなことか、そして、安全な水によって、救われる命がどれだけあるかということを考えていかなければならないと思います。そして、今を生きていく私たちが、世界中に広がる水質汚染や濁水などの問題にどう向き合っていくかが大切なことだと思います。